

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	書 写
-----	-----

発行者	総合的な所見
東 書	<p>第1の観点</p> <p>①毛筆と硬筆における正しい姿勢を写真で示しているため、正しい姿勢を視覚的に理解できる。</p> <p>②筆脈を点線で示している。また、朱墨で筆使いを示し、ポイントに、「四つの動き」を示すアイコンで筆使いを示しているため、行書の特徴を確認しながら学習を進めることができる。</p> <p>第2の観点</p> <p>③生徒が実際に書き込めるシートを作り、手本を見ながら書けるようにしている。</p> <p>第3の観点</p> <p>④防災訓練など、地域社会や生活に広げて示している。</p> <p>⑤「書写の学習の進め方」では、基本となる学習の流れを示しているため見通しがもてる。</p> <p>⑥「振り返ろう」という形で目標と対応する投げかけで学習者に示しているため、自分ごととして学習を進められる。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑦小学校の学習の振り返りから始まり、姿勢や筆記具の扱い方、楷書、行書の学習を経ているため、効果的に書く学習ができる配列になっている。</p> <p>⑧明朝体の始まりやひらがなの成り立ち、文字の変遷について知ることができる。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑨該当箇所の二次元コードからコンテンツにアクセスできる書写テストに回答できる。</p>
三省堂	<p>第1の観点</p> <p>①正面からの写真と横から撮影した写真を掲載しており、正しい姿勢が視覚的に理解できる。</p> <p>②第1学年「行書 点画の形や方向の変化」において、筆脈を青の矢印や点線で示し、言葉で解説している。また、行書の文字（朱墨）と楷書の文字（黒字）を並べて示している。そのため、視覚的に理解しやすい。</p>

	<p>第2の観点</p> <p>③手紙の構成を、手書きの場合とパソコンで書くときの構成も踏まえて示しているのので、実生活と関連付けて考えやすい。</p> <p>第3の観点</p> <p>④グループ新聞や情報誌を作る単元があり、協働的に活動することができる。</p> <p>⑤楷書と行書を比較することで、目標にせまる手立てを用意している。</p> <p>⑥振り返りの視点を「～できましたか」と投げかける形で提示し、学んだことを自分の言葉で書く欄を設けている。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑦姿勢と構え方を学習し、楷書、楷書と仮名、行書の学習を経て文字文化の豊かさについて学習するという配列になっているため見通しがもてる。</p> <p>⑧ひらがなの発生や文字の変遷について知ることができる。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑨該当箇所の二次元コードからコンテンツにアクセスでき、関連する資料の概要を確認することができる。</p>
教 出	<p>第1の観点</p> <p>①ボールペンの持ち方の理解を助ける写真が掲載され、視覚的に理解することができる。</p> <p>②朱墨で筆使いを示し、ポイントとなるところに、「連続」や「変化」を示すアイコンと写真で筆使いを示し、視覚的に理解できる。</p> <p>第2の観点</p> <p>③どのような点に注意するとよいか、話し合うための観点を示している。</p> <p>第3の観点</p> <p>④校庭の植物を観察してレポートにまとめるなど、学校生活と関連付けた単元を設定している。</p> <p>⑤「考えよう」という項目で注意点を疑問の形で示すとともに部分的に取り上げて視覚的に示している。</p> <p>⑥目標と同じページ内に振り返りの項目が示され、(○と△)で振り返ることができる。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑦楷書、楷書と仮名の調和、行書、行書と仮名の調和の学習を経て学習活動や日常生活に生かして書く学習という配列になっている。</p> <p>⑧仮名の成立や文字の変遷について知ることができる。</p>

	<p>第5の観点</p> <p>⑨該当箇所の二次元コードからコンテンツにアクセスでき、ワークシートを閲覧できる二次元コードで確認することができる。</p>
<p>光 村</p>	<p>第1の観点</p> <p>①SDGs と書写を関連付けており、左利きの生徒への配慮もある。</p> <p>②半紙原寸大の教材文字の横に、朱墨と薄墨で筆使いを示しているため、行書の特徴を理解できる。</p> <p>第2の観点</p> <p>③「考えよう」では、目的や場面に応じてフォントなどの文字を使い分けることを考えることができる。</p> <p>第3の観点</p> <p>④国語や総合的な学習の時間との関連付けを明確に示している。</p> <p>⑤行書学習の始めに行書の特徴を四つに整理して行書スイッチを設定し、「考えよう」ではどのスイッチかをイラストで示している。「確かめよう」では筆使いを擬音語で示している。</p> <p>⑥楷書と比較した行書の違いを書き込ませるなど、学習者に気付きを促す課題がある。</p> <p>第4の観点</p> <p>⑦楷書、行書の学習を経て、文字を使い分けることや日常に役立つ書式の学習という配列になっているため見通しがもてる。また、書写ブックを活用して、硬筆の学習を行えるようにしてある。</p> <p>⑧伝統的な言語文化やユニバーサルデザインフォントについての教材があり、文字の使い分けについて理解ができる。</p> <p>第5の観点</p> <p>⑨該当箇所の二次元コードからコンテンツにアクセスでき、「文字マップ」や「SDGsについて」等、教科用図書に収録されていない関連資料を二次元コードで確認することができる。</p>